

資料1

第114回火山噴火予知連絡会幹事会 議事録

日時：平成21年10月5日10時30分～11時30分

場所：気象庁会議室

出席者：会長 藤井

副会長 石原

幹事 越智 植木 大島 木股 清水 鈴木 渡辺 横山

代理出席 飛田（国土地理院） 井上（国交省）

事務局 齋藤 小久保 松森 山崎 飯野 平松 山中 斎藤（公）

オブザーバ 大塚 高木（内閣府） 高木 長岡（文科省）

宮村（北大） 山里（気象研）

1. 開会

国土地理院からは今給黎委員の代理で飛田氏が出席、
配付資料について説明

2. 報告事項

① 異動による委員の交代について

横山委員から予知連の新委員として、越智内閣府参事官（地震・火山・大規模水害対策担当）および鈴木文部科学省地震・防災研究課長を紹介

② 火山防災エキスパート制度の発足について

越智委員から配付資料をもとに説明。以下補足。

- ・ 現在、政策統括官からの委嘱で5名登録している。
- ・ 年内には3件ほど依頼がある。

③ 科学技術・学術審議会測地学分科会の活動状況について

鈴木委員から配布資料をもとに概要説明。

④ 火山噴火緊急減災対策砂防計画の策定推進

国交省井上委員代理より配布資料をもとに概要説明。以下補足。

今後変更予定あるが、緊急対策については十勝岳、樽前山をはじめとして7火山程度策定予定。

⑤ 防災科学技術研究所の「火山観測網整備に関する検討委員会」（第1回）について

清水委員から配布資料をもとに委員会の開催状況について説明。以下補足。

- ・ 22年度概算要求では樽前山、北海道駒ヶ岳、草津白根山、口永良部島、桜島の計5

火山を対象とする予定。今後6年くらいの計画で重点観測火山を中心に順次取り組んでいくこととしたいと考えている。

- ・ 採取したコア（200m）は、噴火履歴の解明等に有効活用していきたい。今年度は掘削地点に近い機関へ保管し、防災科研と共同研究を締結する。次年度はコアを実際に解析する研究者も含めてもう少し広い範囲で共同研究として進めていきたい。

<質疑等>

- ・ 補正予算の状況は？
- ・ 補正予算については執行停止分がまだ公表されていない。財源の確保のため今後さらに検討・精査される予定。なお、22年の概算要求については、8月31日が期限であったが、10月15日に再度概算要求を提出する予定（現在省内検討中）。

⑥ 気象庁の火山観測施設の整備について

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明。以下補足。

- ・ 大きく4つに分けた仕様については契約済み。今年度中の実施を目指している。
- ・ 待受の契約については未実施。
- ・ 設置点リストについては、諏訪之瀬島について変更の計画がある。

⑦ 「火山ボーリングコア解析グループ」の活動について

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明。以下進捗の補足。

- ・ 配布資料（9/30時点）後の更新状況として、青ヶ島、伊東無（伊豆大島）、草津白根山については10月に入り作業開始。
- ・ 秋田駒ヶ岳、新潟焼山、御嶽山については100m終了。
- ・ 現地におけるコア観察はいくつかの火山で実施している。要望があれば対応する。
- ・ コアは現在のところ、現地または応用地質で保存している。今後産総研へ搬入する予定だが、コア倉庫改修のため、1～3月は場所がとれず作業できない見込み。

<質疑等>

- ・ 物理検層などは行うのか？
- ・ PS検層などを実施する。
- ・ ボーリングコアについては産総研の倉庫に納めることとしており、解析グループの構成員は産総研+地域の大学関係者で構成している。地質だけに限らず可能な限り有効活用していきたい。

⑧ 噴火警戒レベルの導入状況

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明。以下進捗の補足。

- ・ 秋田駒ヶ岳については10/27に導入予定。
- ・ 他3火山（新潟焼山、伊豆東部火山群、焼岳）については導入は目指しているが、今年度内の導入は非常に微妙な状況。

⑨ 気象庁機動観測実施状況

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明

⑩ 衛星解析グループの活動状況について

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・ サリチェフピークについては、何か報告は出したのか？
- ・ 気象研と気象庁で、この秋の火山学会でポスター発表予定である。

⑪ 三宅島の火山ガス注警報の発令状況

齋藤火山対策官から配付資料をもとに説明。6月～9月の期間の注警報発令状況を補足。

⑫ 火山観測体制等に関する検討会の検討状況について

清水委員から配付資料をもとに説明。以下補足。

- ・ 113回の予知連以降、検討会そのものは行っていない。データ流通・作業部会を開催し、流通に係る技術的な検討は実施。
- ・ 各火山の個別の表については現在作成中。

<質疑等>

- ・ 気象庁のセンターが中心となって各火山資料の個別の表の案を作成中。これから委員の先生方に相談させていただく。データ流通については防災科研と気象庁間の交換は来年度にできるのではないかと考えている。
- ・ 一部大学機関ではハード的な面で問題があるようだが目処はたつのか？
- ・ 金銭的な問題でもあるが、JGN2に接続さえできれば問題ないのだがそこが課題。どうするか具体的な案についてはまだない。

3. 「全国の火山活動の評価」（案）

小久保火山活動評価解析官から配付資料をもとに説明

<質疑等>

- ・ 富士山について、地理院では茂木モデルで、15km付近へのマグマ貫入で説明されている。地震研から東海地域で起こった先日の地震に伴って、富士山直下の地震が一時的に増えたことについての報告があると思うが、その他は異常な現象はない。また、8月21日の地震予知連でも地理院から同様の資料で報告されたがメディア

は特に注目しなかった。深部低周波地震のときのように、今回の噴火予知連の発表により社会的に影響が大きくなることも考えられる。メディアへの対応含めて意見はないか？

- ・ 富士山の南東側に富士宮 1・2 という GEONET ではない観測点がある。富士川断層帯の調査観測目的で文科省予算にて維持経費をとって観測をしていた。今年度で廃止予定の方向であったが、富士山周辺の地殻変動を捉えており、過去のデータの蓄積もあり、観測を継続することで検討している。
- ・ 物品管理に関しては事情を説明し、継続手続きをすすめることで事務レベルでは話している。
- ・ 中長期的な現象把握が必要で、地理院として維持・管理をしていく方向。
- ・ トータルの変化量が少ないので、是非長期的に考えてほしい。
- ・ いただいた意見を踏まえて前向きに検討したい。
- ・ 基本的には噴火の兆候はない、活火山の活動としては珍しいことではないということで説明はできるだろう。本日以降、場合によってはメディアから各委員に取材があるかもしれないので対応に気をつけてほしい。桜島のほうでは何かあるか？
- ・ 最近の中では活発だが、まだ活発するものと思われる。
- ・ 東京はメディアも関心が薄い。

4. 連絡事項

- ・ 午後の定例会は 13 時から講堂で開始する。記者会見は 18 時から会長・副会長・火山課長が行い、活動評価等について説明する。活動評価のあと、桜島の構造探査についても報道発表（井口委員と火山課長で説明）を行う予定。

5. 閉会